狭山ステキ発見

漆喰土蔵のあるまち みて歩き

① 広瀬 3 丁目-27
板壁おさえ用フックがよくみえます

⑤ 広瀬 3 丁目-25
切妻についているのは屋号

⑥ 広瀬 3 丁目-25
2 階に窓のある土蔵

私たちは、かつて水田・養蚕で栄えたであろう水富地区（特に広瀬 2～3 丁目地区）の漆喰の土蔵の多さに着目しました。その用途は、米の保存、道具・食器等の保管庫として使用していたようです。ただ、今はあまり活用しておらず単なる物置にされている家が多いようです。

興味あることとしては、土蔵壁面にかぎフックがありますが、平常時は土蔵壁面の漆喰の外側は板塀で囲っており、その壁を抑える横木の引っ掛けのためのフックだそうです。非常時には、横木を外すことにより、囲っている板塀が倒れ、土蔵そのもので、火災からまもるようになっています。（分布地図　左上参照）

また、当広瀬地区にはいまでも28戸の土蔵が現存しています。

さやま市民大学

地域ジャーナル講座

制作：村田光平（編集責任者）

協力：木下保子・高橋茂夫・角田英子

指導講師：澤野久美子

〒350-1304　狭山市狭山台 1-21

Tel (04)2968-6885

《2017（平成 29 年）11 月 1 日発行》

⑳ ほとんどの土蔵が妻側には屋号又は家紋がついています

広瀬 3 丁目の中心をながれる根堀川（いつも鯉が泳いでいます）

④ 広瀬 3 丁目-27
住まいに隣接する土蔵

⑫ 広瀬 3 丁目-30
庭の植木にはえる小さな土蔵

⑱ 広瀬 3 丁目-27
家紋のある土蔵

通常は板壁を横木でフックにかけて保護している
（今はほとんど板壁はない）

今でもフックだけはのこっている